

Rain catch エプロン (レインキャッチエプロン)



歩車道両面排水構造！

エプロンに歩車道両面から速やかに路面水を排水できるように排水孔を設けました。

L型側溝の機能はそのままに、大雨時の水たまりや水はねを抑制し、快適な歩行環境が確保できます。



特長

1 快適な歩行環境の確保

基本タイプ、乗入タイプに排水孔（排水スリット）を設け、大雨時、オーバーフローや水たまり、歩行者への水はねを抑制します。また、空き缶は排水孔に通らない寸法になっています。

2 施工の省力化

水抜き穴の形状の見直しを行い、水抜き穴部のモルタル仕上げを不要としました。今まで以上に施工の省力化に寄与できます。

3 規格の統一化

基本型／水抜き型の規格の統一を行い、排水孔付きの水抜きタイプを基本型としました。施工時の布設間違いがありません。

4 コスト縮減が可能

排水能力に優れていますので柵の設置個数を低減でき、コスト縮減に寄与できます。

5 維持管理面

排水孔の形状は下へ行くほど広がっているラッパ形状となっていますので、目詰まりを起こしにくくなっています。また、下部側溝には十分な通水断面積（300×300以上）を持ったロングUを使用するので、大雨時や土砂等の堆積による断面減少、また維持管理面でも安心です。

6 修繕工事に対応可能

排水孔の形状は、既存規格のロングUで排水可能な形状としていますので、新設工事のみならず、既設の老朽化や縁石形状変更の際も既設ロングUはそのままご利用頂けます。

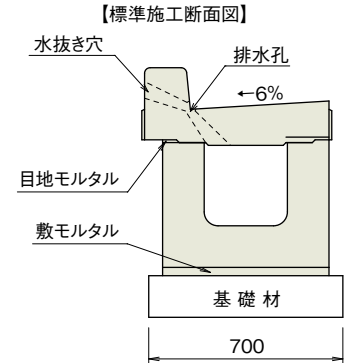
7 「兵庫県小型構造物標準図集」掲載

8 草止めエプロンにも対応可能です

※取扱地域が記載されていない地域については、担当営業所(P488)にお問い合わせください。

歩掛り

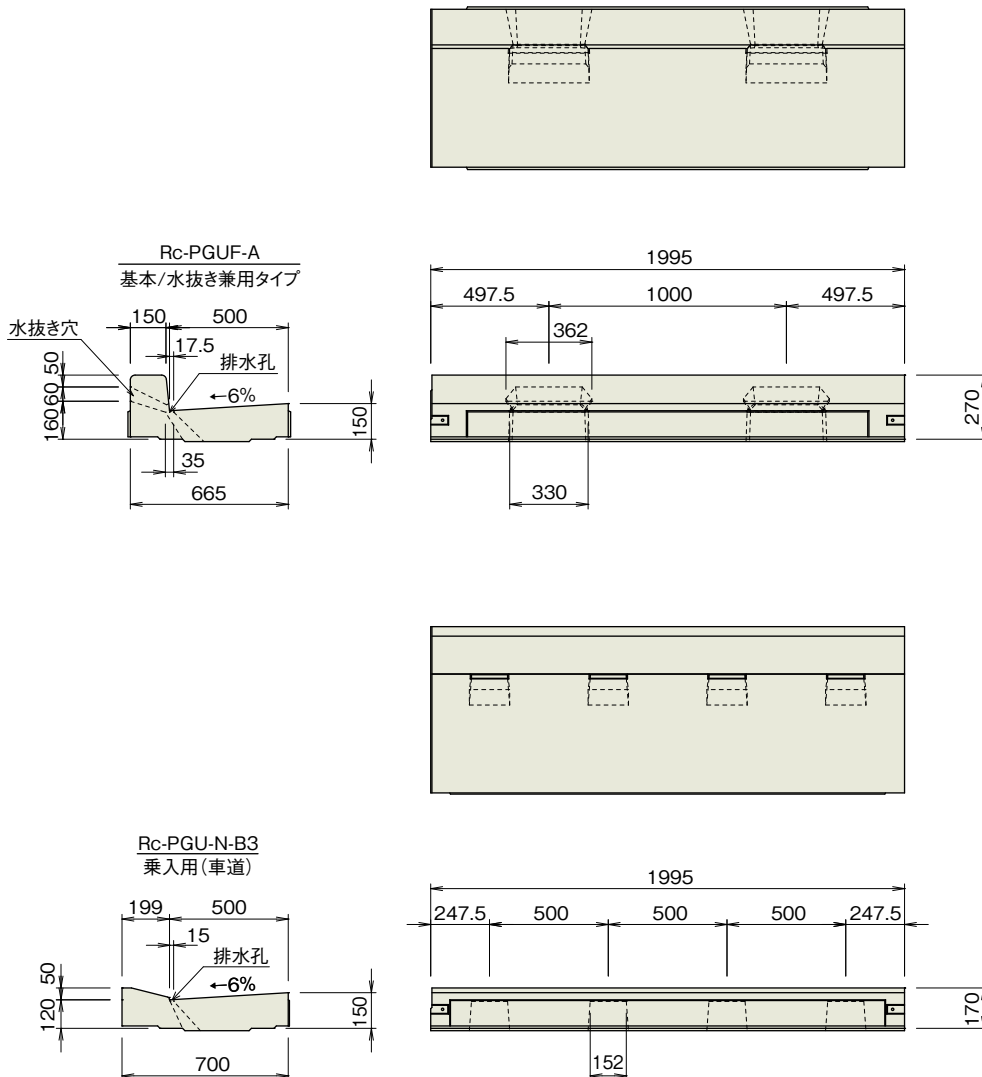
| 工種 | 名称 | 規格 | 単位 | 延長10mあたり | |
|-----|----------------|-------------------|----|----------|-------|
| | | | | L=1995 | L=995 |
| 据付工 | Rain catchエプロン | Rc-PGUF-A | 個 | 5.0 | 10.0 |
| | 世話役 | | 人 | 0.1 | 0.3 |
| | 特殊作業員 | | 人 | 0.1 | 0.3 |
| | 普通作業員 | | 人 | 0.3 | 0.8 |
| | ラフテレーンクレーン運転 | ラフテレーンクレーン(4.9t吊) | 日 | 0.1 | 0.3 |
| | 諸雑費 | | % | 3.0 | 3.0 |



注)1: 歩掛りは、運搬距離 30m程度を含む標準的な据付作業であり、掘削、埋め戻し等を含みません。
 注)2: 諸雑費は小運搬機具の損料、目地モルタルおよび敷モルタルの費用として、労務費、ラフテレーンクレーン賃料の合計に率を乗じた金額を上限としています。
 注)3: 据付に使用するラフテレーンクレーンは 4.9 吊を標準とします。ただし、現場条件によりその規格を変える事ができます。

製品図

(単位:mm)



注)面取り・吊り孔・テーパー等製作上必要に応じて加工する場合があります。

カルバート・
下水道

擁壁・
法面保護工

道路

高速道路

水路関連

河川・海洋・
環境

貯留・
防災システム

通信関連

建築・宅造

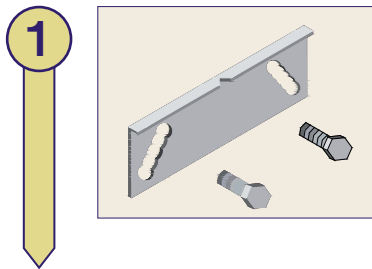
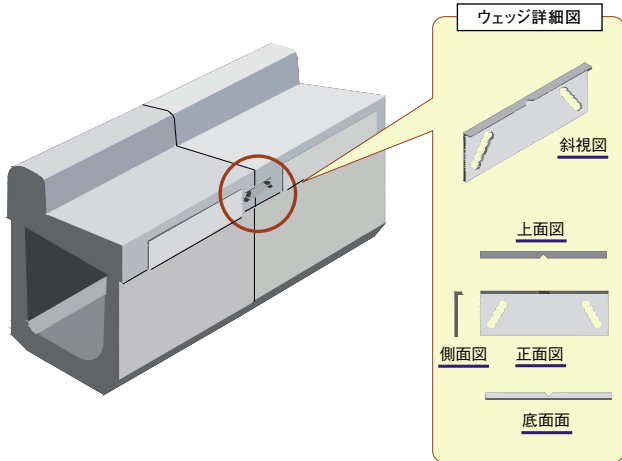
特殊工法・
新素材

参考資料

コンクリート製品連結金具PAT

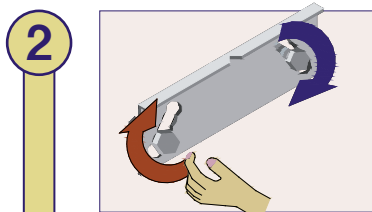
ウェッジの取付方法

A. 新タイプのウェッジ

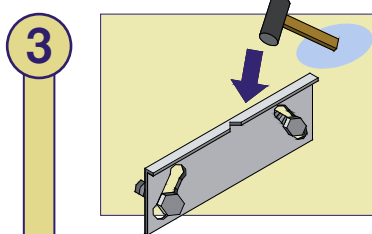


①ウェッジはプレートと2組のボルト、ワッシャでエブロンを連結します。

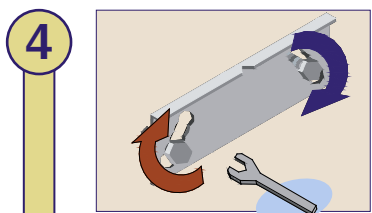
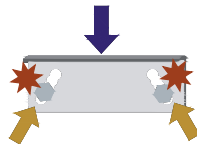
使用工具



②折り曲げ面上側にして、プレート穴にボルトとワッシャを差し込み、手でボルトを締めて固定して下さい。その際、プレートはできる限り水平に取り付けるように注意して下さい。



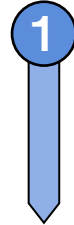
③ハンマーでウェッジ上部の折曲面を叩くことで、ボルト穴への固定が強力になります！(下図参照)



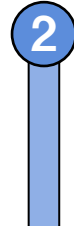
④最後にレンチを使ってボルトをしっかり固定して、全工程終了です。

完成！

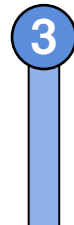
B. 従来のウェッジ



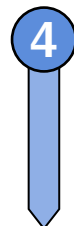
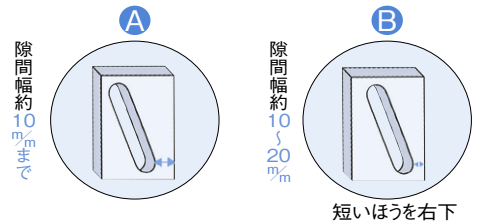
ウェッジは、プレートとクサビを一組として使用します。施工工具としては、レンチとハンマーを用意して下さい。



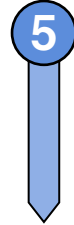
プレートは、折り曲げてある側を向かって右に向け、左側の丸孔にワッシャをはさんでボルトを差し、レンチ等でかたく締めて下さい。



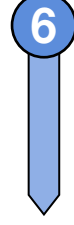
右側の長孔の上にクサビを当て、ワッシャをはさんでボルトを差し、指で締まるまで締めて下さい。クサビは、製品間の隙間により向きを変えます。下図を参考にして下さい。



上図Aの向きでの使用が困難な場合は、ボルトを少し緩めれば、取り外すことなくBの向きに回転できます。



クサビの頭をハンマーでたたきます。たたきにくい場合は、上右図のように別のプレートをあててたたきます。



右側のクサビを固定するボルトを、レンチ等でかたく締めて取付完了です。

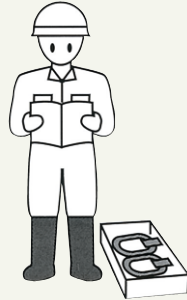
安全確保のために [安全に作業していただくためにこの事項をお守り下さい。]

危険 **注意**

取り扱い全般について



- 法的資格のない人は、絶対にクレーン操作、玉掛け作業をしないで下さい。
(クレーン等安全規則第221条、第222条)
- 吊り上げ運搬中や反転作業中には、つり荷の落下、転倒範囲内に立ち入らないで下さい。
(クレーン等安全規則第28条、第29条)
- 製品が1mを超える物は、必ず4点吊りで行って下さい。又は、1m以下の製品は必ず2点吊りで作業を行って下さい。
- 作業開始前の点検や定期点検を実施して下さい。
(クレーン等安全規則第217条、第220条)



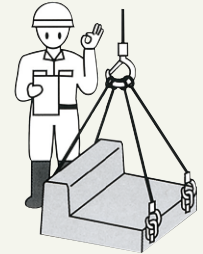
作業前の確認について



- 吊り金具の変形、亀裂、溶接亀裂、摩耗等異常のある物は使用しないで下さい。
- つり荷の条件が次の場合は吊り金具を使用しないで下さい。(吊り穴(インサート)の破損した製品、破損及びクラックの入った製品)



- つり金具に使用するスリング、シャックルは玉掛け作業に適合した物を使用して下さい。



施工する時の安全対策



- 製品の吊り上げ、吊り下げ時には部材の下に絶対、人が入らない様にして下さい。
- 掘削機(ユンボ)での吊り上げ、吊り下げ作業は、絶対しないで下さい。
- 掘削機は回転運動になるため吊り上げ、吊り下げ時、スリングがはずれたり荷ぶれが生じる危険性があります。
- 製品の吊り上げ、吊り下げには垂直に昇降するクレーンなどを使用して下さい。
- 玉掛け作業は必ず有資格者が作業して下さい。



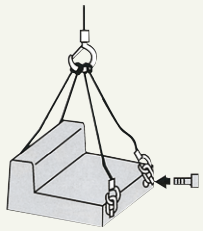
吊り金具の取り付け



- 製品本体の吊り穴(インサート)に吊り金具のボルトを奥までねじ込みセットして下さい。
- 吊り上げ時に吊り金具が外れない様、十分ねじ込めているか確認して下さい。



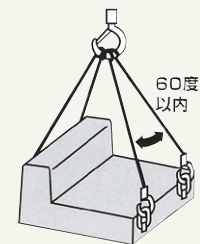
- 吊り金具と製品部材で手、指を詰めない様に注意して下さい。
- 吊り金具セット時に製品を破損させない様に注意して下さい。



エプロンの吊り上げ



- 吊り金具の基本使用荷重を超える製品は、絶対に吊らないで下さい。
- 製品や吊り金具に衝撃荷重が働くようなクレーン操作はしないで下さい。
- 吊り上げた製品には、絶対、人は乗らないで下さい。
- クレーンで巻き上げるとき、吊り金具に荷重が掛かった時点で一旦停止して、安全確認(差し込み深さ、スリングのねじれ、吊りバランス)を確認して下さい。
- クレーンの巻き上げ、巻き下げは、静かに丁寧に行って下さい。



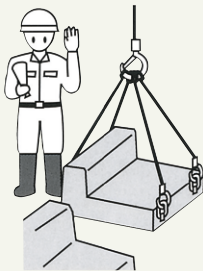
据え付け



- 製品を引きずるようなクレーン操作をしないで下さい。
- 着地前に一旦停止して、次の事を確認して下さい。(製品の傾き、転倒、及び周辺の安全確認)
- 巻き上げ中や運搬作業中には製品の落下、転倒範囲内には、立ち入らないで下さい。



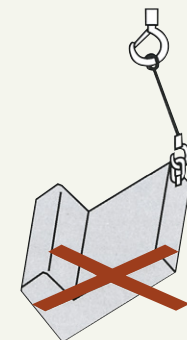
- 製品に大きな衝撃を与える作業はしないで下さい。
- 急激なスピードによる吊り上げ、吊り降ろしは、しないで下さい。
- 製品を破損させない様に静かに吊り上げ、吊り降ろしをして下さい。



金具の取り外し



- 製品から取り外し途中の状態再度吊り上げは、絶対にしないで下さい。
- 製品が定位置に据え付け完了すると吊り金具を外します。この時、取り外した吊り金具は、側溝上に置きします。
- 吊り金具を全部、側溝上にある事を確認して下さい。

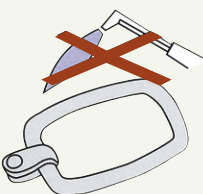


- 吊り金具を取り外す際、手、指を詰めないように注意して下さい。

保守点検・保管・改造について



- 吊り金具の改造は、絶対にしないで下さい。
- 吊り金具に溶接、加熱などしないで下さい。
- 保守点検は、事業者が定めた専門知識がある人が行って下さい。
- 保守点検で異常があった時は、そのまま使用せず、ただちに廃棄して下さい。



- 吊り金具は必ず屋内に保管して下さい。